

ポーランド史を刻む二つの記念碑

(菊地マウゴジャタ・ポーランド出身)

第二次世界大戦末期の1945年1月27日、ソ連軍によってアウシュヴィッツ強制収容所が解放されました。この日を「国際ホロコースト記念日」（ホロコースト犠牲者を想起する国際デー）と国連が定め、毎年各地で哀悼の儀式が執り行われます。

ポーランドは1939年9月、ナチス・ドイツに侵攻され、翌40年5月にナチス親衛隊により、アウシュヴィッツ第1強制収容所、1942年にアウシュヴィッツ第2強制収容所（アウシュヴィッツ・ビルケナウ）が設立されました。収容者の90%がユダヤ系と言われ、この収容所で行われた残虐行為は、世界に周知されている史実です。

ところで、「国際ホロコースト記念日」ほど広くは知られていませんが、私の母国ポーランドでは、2006年6月8日に、「ナチス・ドイツ強制収容所及び絶滅収容所の犠牲者を追悼するナショナルデー」という記念日を、6月14日と決めました。

ナチス・ドイツ占領下で、設立間もないアウシュヴィッツ強制収容所に、最初に連行、収容されたのは、1940年6月14日に護送列車で到着したポーランド人だったのです。収容者（囚人）たちは、ポーランドの南部に位置するタルヌフ（Tarnów）市出身者で、728人の男性は、ほとんどが政治犯でした。

現在、タルヌフ市内にはアウシュヴィッツに連行された最初の収容者であるポーランド人に関連する二つの記念碑が設置されています。

一つは「アウシュヴィッツ強制収容所への収容者第一次護送記念碑」で、収容者たちが歩かされた石畳の一部は、モニュメント全体に組み込まれています。細長いプレートのような記念碑に刻まれた碑文には、強制収容所に連行された彼らが、ポーランドの政治犯であったことが強調されています。この記念碑の除幕式は、1975年6月14日に行われました。



もう一つの記念碑は、タルヌフ中央駅の1番線ホームに置かれています。「アウシュヴィッツへの最初の収容者護送を記念するオベリスク（方尖塔）」です。こちらは、記念日決定後の2010年6月14日に除幕されました。慰霊碑には最初の収容者のポーランド人728人の名前が刻まれています。

1940年から1943年の間にタルヌフ市だけでも、ポーランド人7,000人がアウシュヴィッツに押送されました。その後ポーランド全土から、さらに多くの人びとが連行され、収容者の人数の増加と共に、収容所は拡張されていきました。



ポーランドでは毎年6月14日に、アウシュヴィッツ・ビルケナウにて、ローマカトリック、福音主義協会など様々な宗教の司祭によって荘厳なミサが執り行われます。

アウシュヴィッツ強制収容所の副所長
カルル・フリチシ (Karl Fritzschi) は、
ポーランドの収容者に対し、「あなたが
来たのは療養所ではなく、ドイツ強制収
容所だよ。ここからは煙突を通る以外の出
口がないのだ」と冷徹な言葉を浴びせまし
た。恐怖に満ちた悲しい話ですが、これは
ポーランドの歴史の一部です。

私は約18年間通訳として、アウシュヴ
ィッツを含めポーランド全土を周りまし

た。ときには通訳をしながら当時のことに想いを馳せ、胸に込み上げてくるものがありました。時どき、ユダヤ系の方の中には「私たちが殺害されたのだ」とおっしゃる方もいます。犠牲者の大多数がユダヤ系の方々であることは承知していますが、それだけではありません。アウシュヴィッツにおいて、ポーランド人を含むユダヤ系以外の様々な民族も犠牲になったことを、史実として記憶にとどめて欲しいのです。

地上で最も痛ましい戦争という過ちを二度と起こさないために！

